



# ミャンマーと民主化運動

## 熊澤新 (CRPH支援協会・日本連絡事務局) さんに聞く



### 90%が仏教徒の多民族国家 英日の支配から独立

2月1日に国軍によるクーデターが起こったミャンマー。クーデターに抗議し、民主主義の回復を求める市民らに国軍は激しい暴力を加え、多くの命が奪われ、不当な拘束を受ける多数の人々が出ています。現在、CRPH(ミャンマー連邦議会代表委員会)支援協会・日本連絡事務局で活動する熊澤新さんにお話をうかがいました。

「ミャンマーはどのような国なのか教えてください。」  
熊澤さん ミャンマーはアセアン(東南アジア諸国連合)加盟国で西端に位置します。面積は日本の1.8倍、人口は約5,6千万人です。人口密度では日本の約4分の1です。土地の起伏が激しいのですが、中央部は大平原で大きな川があり非常に肥沃な国土です。コメの収穫が多く、主要な輸出品となっています。

「90%が敬虔な仏教徒です。何かあるごとに、寺に行く習慣があります。また、多民族国家でもあります。約3分の2がビルマ族で、その他多くの少数民族がいます。政府公認の民族数では135民族。行政区分はおおよそ州と管区に分かれています。州名が主要民族であったりします。管区と呼ばれる地域がだいたいビルマ族の居住地域です。中央部の管区は平原である一方、周辺部は山がちで少数民族が住んでいます。」

「現在までに至るミャンマーの近代史はどのようなようになっていきますか。」  
熊澤さん 様々な王朝があり、19世紀に東側のインドとともにイギリスの植民地になりました。20世紀に入ってから、独立運動が起こりました。運動のリーダーとなったのがアウンサンソーチーの父、軍人のアウンサン将軍です。これに協力したのが軍国主義下の日本。日本は対英という思惑があり軍人を訓練し、将軍は一期期日本に住んでいたこともあります。

### 88年に民主化運動

独立を果たして、当初議会などを想定し民主主義国家をめざしたのですが、国土は広く、多民族で国政は安定しませんでした。1962年にネ・ウイン将軍が軍事クーデターを起こします。これが実質的な軍事政権の始まりです。

### 88年世代に若い世代続く 活動に関心と協力を

「在日ミャンマーの人たちの活動はどのようなようになっていきましたか。」  
熊澤さん ミャンマーでは1988年以降の弾圧を逃れて、隣国のインドやタイに国境を越えて逃げてきた難民と日本などに飛行機で逃げてきた難民がいます。1989年頃から日本ではミャンマー難民が来るようになりました。彼らは88世代(当時は学生

など、現在は50代と呼ばれ、在日ミャンマー大使館前でデモをしたり、外務省や日本政府への要請をしたりという活動を長く続けてきました。

2015年の民主化以降、在日ミャンマー人の支援や能力開発、またお祭りなどをやる団体として在日ミャンマー市民協会を立ち上げました。この活動には留学生や仕事

代と大きく違うのは経済的にはわりと開かれた政策をとったことです。投資を積極的に呼び込んだりして、日本の政府や企業とのつながりができました。欧米は経済制裁などをしていたので、軍事政権を支えたのは中国、日本、韓国の企業です。

### NLDは大勝したが...

紆余曲折があつて、ようやく2008年憲法というものができ、2010年に選挙が行なわれますが、NLDは公認化されず、軍政側の「政党」が大勝利し、翌年軍政の関係者が横滑りした、形だけの民政移管でした。とはいえ、この政府は政治囚の釈放、ある程度の報道の自由を認めるなど民主化を進めたのも事実です。労働者、学生、農民の運動も起こりました。オバマ米大統領がミャンマーを訪問することにになりました。

2015年選挙で、NLDが大勝利、政権が翌年誕生します。2020年の総選挙では、少数政党が候補を擁立しなかったこともあり、NLDのさらに大きな勝利となりました。NLDは、国会議員25%のピザで来た若い世代が活躍し多彩な活動を繰り広げ、2月1日のクーデター以降に日本で行なわれている民主化を求める様々な活動にも参加してきています。

「けんせつ」の読者にメッセージをお願いします。  
熊澤さん 国軍による報道制限がありますが、できるだけミャンマーの状況に関心を寄せてもらいたいと思います。留学生や技能実習生が急増したことで現在日本にはおおよそ3万人のミャンマー人がおり、日本各地で民主化を求めるデモを行なっています。街で見かけたらデモに参加してもらったり、ミャンマーの内避難民救援の街頭募金活動に協力してもらえれば、と思います。

### クーデター後は「鎖国」

ネ・ウインはアウンサンとは独立運動の時は仲間でした。軍事政権は当時のソ連や中国と異なる「ビルマ式社会主義」を標榜(ひょうぼう)し、鎖国のような体制を築きます。しかし社会的にも抑圧があり、経済的にもうまくいかず、国民も貧しい生活を強いられ、不満が高まります。

1988年に民主化運動が当時の首都のヤンゴンから始まり、全国に広がりセネストが行なわれるなど大混乱という状況になります。この年の8月8日に大規模なデモがあ

り、それを国軍が弾圧します。それでも混乱は収まらず、9月に再度の軍事クーデターが起こりました。軍事政権は自ら「臨時政府」と称し、総選挙を約束します。この年に母の病気の関係からアウンサンソーチーがイギリスから帰国。民主化運動に担ぎだされ、NLD(国民民主連盟)を結成し、総選挙ではNLDと民族政党が圧勝しますが、軍は議会招集を拒否し、民主勢力の弾圧を強化します。

軍事政権はその後20年以上続きましたが、ネ・ウイン時

を国軍総司令官の任命する者とするなどの問題を含む2008年憲法の改正を提起しますが、2021年2月1日の議会開会日の朝に国軍のクーデターが起こりました。

「現在、ミャンマーはどのような状況なのでしょう。」  
熊澤さん 民主化のデモに対してはしばらく軍政は手をこまねいていましたが、2月中旬から無差別の発砲、リーダーや有名な活動家の逮捕、拘禁等の弾圧を本格的に開始し、デモは下火になっていきます。散発的、ゲリラ的なデモは続いているのですが、半年が経過していますので、民主化運動の方も疲弊(ひへい)してきているのも事実のようです。

「ミャンマーには多くの少数民族がいることは前に述べました。軍政は少数民族に対して抑圧政策をとっていたので、抵抗運動が50年以上続き、主要少数民族には活動団体、武装組織もあります。今回の軍事クーデター以降、これらの少数民族の組織が民主化運動の側につき、一部戦闘が起きているようです。軍は少数民族地域への空爆などの攻撃を強め、隣国タイや国内での避難民が発生しています。」

太平洋戦争が始まり、日本はビルマに侵攻しますが、将軍の率いる「独立軍」は日本に協力し、日本は国土のかなりの部分を占領します。1942年から2年ほどビルマは日本の軍政下となります。しかし北アフリカでのドイツとの戦いにめどをつけたイギリスはビルマで勢力を盛り返し、1944年に奪還します。1945年3月27日に、アウンサン将軍らは態度を翻し、日本軍の攻撃に転じます。これは、日本軍政下の2年間でビルマ市民にとっては過酷であったことがわかったからです。8月15日に日本敗戦となりますが、ビルマのイギリスによる支配が継続、1948年に独立します。前年の1947年にアウンサン将軍は暗殺されています。



渋谷区にある国連大学前で開かれた、アウンサンソーチー氏の誕生日を祝い、氏の解放と民主化を求めて行なわれた集会(2021年6月19日)